

住民や関係機関に応じて、関心や対応力 向上をはかるための工夫と実際

向日市社会福祉協議会（京都府）

認知症地域支援推進員 石松 友樹

平成29年6月16日





向日市基礎情報

人口	56,413人	65歳以上人口	14,871人
高齢化率	26.4%	第6期介護保険費	5,177円
要介護認定者数	2,626人	要介護認定率	17.6%
日常生活圏域数	1圏域	包括数	委託：3

認知症地域支援推進員数： 1名（うち委託：1名）

《役割》 認知症の人に対し、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、認知症医療機関、介護サービス事業者や認知症サポーターなど、地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図る。認知症の人やその家族を支援する事業を実施する。

地域の特徴

向日市は、京都盆地の西南部に位置し、市の北部、西部と東部は京都市に、南部は長岡京市に接し、南北4.3km、東西2.0kmにわたる南北に長い市域で、面積7.72km²の西日本で最も面積の小さな市です。



認知症施策の全体像

認知症であっても安心して生活できる地域を目指して、次の2点を中心とした取り組みを推進していきます。

○認知症に関する正しい知識と理解が市域全体に広まるよう、市民や市内の事業者などに対して、様々な機会を通じて認知症に関する正しい知識の普及啓発に努め、認知症の方を正しく受入れ、見守る環境づくりに取り組みます。

○認知症の可能性のある人を早期に把握し、状態に応じて早期から適切に対応し、適切な医療(早期発見)・介護サービスにつなげていく体制づくりに取り組みます。

以上の取組を進めるため、認知症地域支援推進員を配置し、関係機関との連携を図り、認知症施策を推進します。

取組当初の課題

- ◆ 認知症に関する講座等の参加を募っても参加者は高齢者（自分が認知症にならないために話を聞きたい）や、いつものメンバーや領域が多く、若い世代の関心が低かった。（考えるきっかけが少なかった）

⇒啓発

- ◆ 老若男女すべての人たちが認知症に関心を持ち、地域で支え合えるやさしい町を目指して、子ども達の力に着目する。考えるきっかけがあれば協力してくれるはず。

⇒啓発・対応力向上

- ◆ 様々な事業を様々な事業所が行ってはいるが、つながっておらず、単発イベントで終わっていた。

⇒ネットワーク構築

- ◆ 様々な関係者や地域住民等と顔の見える関係でなかったため、個々のケースに問題（例えば：徘徊時や主治医がいない、受診拒否など）の際の検討や動きに時間がかかった。
どこの誰に相談すればよいのか分らなかった。

⇒相談体制構築

具体的な取り組み

対象	内容	連携機関	分類
① 小・中学生とその保護者	授業参観でのサポーター講座	学校教育課 小・中学校 キャラバンメイト 民生児童委員	◎啓発 ◎対応力向上
② A団地住民	徘徊模擬訓練	向日台連合自治会・地区社協 中学校 民生児童委員 オレンジロードつなげ隊 キャラバンメイト 小規模多機能 特養 介護者の会 保健所 警察署 社協	◎ネットワーク構築 ◎啓発 ◎対応力向上
③ 介護者	家族交流会	医師会 認知症サポート医 認知症カフェ 包括 CM連絡会 保健所 喫茶店 介護者の会	◎相談体制構築 ◎啓発 ◎対応力向上
④ 関心のない住民	プロ野球選手と認知症を考えよう	著名人 イベント業者 キャラバンメイト 地域の野球チーム 小・中学校	◎啓発
⑤ コンビニ CM・HH	企業と専門職が連携してできること	乳酸菌飲料会社 コンビニ ケアマネジャー ヘルパー 包括 社協	◎ネットワーク構築 ◎対応力向上 ◎相談体制構築
⑥ 介護事業所職員	対応力向上研修	ヘルパー連絡会 CM連絡会 各事業所 キャラバンメイト	◎対応力向上
⑦ サロンの世話人	「メンバーが認知症になったら...」	サロンの代表者 社協	◎対応力向上 ◎啓発
⑧ 祭りに参加する住民	〇×クイズ・アンケート	キャラバンメイト 保健所 ボランティア 包括 社協	◎啓発
⑨ 警察・消防	連携できる機会の設定	向日町警察署 向日消防署	◎ネットワーク構築 ◎対応力向上 ◎相談体制構築

① 小・中学生とその保護者に 「近所のおじいちゃんが困っているのを発見したら…」



感想文(一例)

【子ども達】

困っている人を見つけたら知らんぷりしないで声をかけたり、お母さんに相談します。

【保護者】

困っている人のために子ども達が一生懸命考えているので、親としても知らんぷりするわけにはいきません。

ポイント
ポイント



授業参観
親子一緒に考える

② 町内会・自治会・集合マンションに 「ご近所の人々が徘徊しているところを発見したら・・・」



- ポイント ① まずは町内会単位の小地域から
- ポイント ② 町内会のキーパーソンは誰か
- ポイント ③ 近隣の地域密着型事業所とは密な連携を

③ 喫茶店での家族交流会



地域の喫茶店を貸し切り、家族交流会を実施。アドバイザーには認知症サポート医や介護者の会に依頼。

ポイント
ポイント
ポイント
ポイント
ポイント

介護者が自発的・継続的に集まれそうな場を
参加しやすい雰囲気作り
認知症サポート医も一緒に
介護者の会も一緒に

④ 認知症にあまり関心がない人に 「プロ野球選手と認知症について考えませんか」



ポイント
ポイント



著名人をゲストに考えるきっかけ
地域の関心ごとに目を向けて

⑤ 企業と専門職の連携会議



訪問サービスを行うコンビニや企業とケアマネジャー、ヘルパーなどの福祉専門職が「よりきめ細かい見守り」について顔を合わせて検討する場を設定。

利用者にとっては企業も専門職も関係なし
コンビニや企業とも顔の見える関係に
コンビニや企業も是非ケアプランに

⑥ 介護事業所に 対応力向上研修



自分自身の支援方法
をかえりみる機会に



ポイント 
ポイント 

自分が支援を受ける側だったら
認知症になっても今まで通り...

⑦ サロンの世話人に 「もしサロンのメンバーが認知症になったら・・・」



認知症になった
→サロン無理？介護保
険サービスにすべて移
行？



ポイント
ポイント
ポイント

自分自身のこととして捉えてもらう
今後は生活支援コーディネーターと一緒に

⑧ 地域行事等に参加する住民に 啓発アンケート・認知症〇×クイズ

★子ども

- ・にもつをもつ。
- ・たすける。
- ・いっしょにあるく。
- ・大人けいさつにれんらくする。
- ・まいごですかときいてみる。
- ・おうちまでおくってあげる！

町で困っている人を見かけたらどうしますか？

★大人

- ・まず声をかけて話をします。名前や住所がわからない様子なら、交番と一緒にいきます。
- ・近所の人に知らせる。
- ・お話をして仲良くなって家までお連れしたいと思います。
- ・手をつなぎ 好きな物なんですか？花を見て散歩しましょう。
- ・その方の安全が確認できる状況になるまでしっかりサポートします。
- ・手をつないで目的の場所くらいは案内できると思います
- ・いつかは自分もその日がくるであろう。声をかけ合って助け合いたい。
- ・はじめは見守って困られているなあと思ったらやさしく声をかけたいです。
- ・まずあいさつします。

463人の
やさしいご意見

住民が多く集うイベントと連携し、幅広い世代の住民対象に認知症に関するアンケートや〇×クイズを実施し、合わせて認知症啓発タオルを配布。



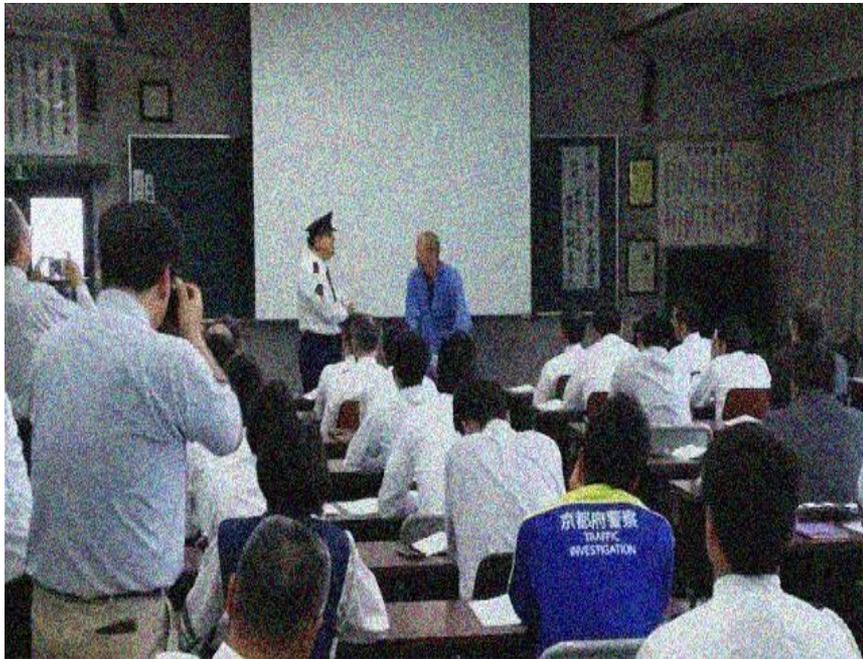
ポイント
ポイント

人が多く集まる地域の行事
楽しく参加できる工夫

⑨ 警察・消防が

連携できる機会の設定

警察署のキャラバンメイト
が消防署の認知症サポーター講師を務める。



① 推進員が警察署での講師



② 消防署での講座の企画



③ 警察に「消防署での講座をするので一緒に行きましょうよ。」



④ 消防署にて警察官と推進員
が一緒に講座



警察と消防がつながる

ポイント
ポイント



つながる必要がある機関はどこなのか
推進員はつなぎ役

工夫したこと

- 対象者を若い世代に設定
- 若い世代の関心ごとに目を向ける
- 子どもからできる親同士のネットワークに着目
- 参加しやすい時間と場所の設定
- 対象者が集まる場所に出向く(待っていても来ない)
- 子どもも親も一緒に楽しく参加できる内容
- 福祉だけの視点にならないように気を付ける
- アンケートは書くだけでなく1人ひとりと対話しながら行う(市民にヒアリングできるチャンス)書いていただいたものはその場で掲示し参加者全体に見える化
- 地域の行事にはできるだけ短時間でも顔を出す
- お誘いがあれば断らない
- 多少無理をしてでもお願い事は引き受ける
- 自分にはない人脈は上司や仲間の協力を得る
- お土産も忘れずに

お土産の啓発タオル



取組を通して課題と 感じていること・気が付いたこと

① イベントで終わらせないこと

② 「直接(一人で)」より『推進(みんなで)』

③ 地域オリジナルの『味付け』をすること

① イベントで終わらせないために

例えば・・・高校生対象 認知症サポーター養成講座の調整

高校生に認知症サポーター講座をしよう

打合せ『当日は……』

200人養成!(^^)!

高校生に認知症サポーター講座をしよう

打合せ『当日は……』

200人養成!(^^)!

次の事業や関わる人達、アイデアを頭に入れて打ち合わせに臨む!

打合せ『講座後、何か一緒にできそうな……』

高齢者に手紙を書こう!



高校生から民生委員に

②「直接(一人で)」より『推進(みんなで)』

例えば…徘徊模擬訓練の実施に向けた調整

- 町内会、自治会との調整と打合せは誰がする？
- 学校には？
- ボランティアには？
- 介護事業所には？
- 警察には？
- 民生児童委員には？
- 当日の進行は誰がする？
- 場所の調整は？
- 道路使用許可の申請は？
- 徘徊役の調整は？
- 案内文はどこに誰が送る？
- チラシの作成は？
- 行事保険は？
- 振り返りは？
- 必要備品は？
- 企画書は？
- その他…

一人でしない

★一人ですると

- アイデアが乏しい
- 従事者の意識が高まらない
- 規模が小さくなる
- 担当者が代わればわからない
- イベントで終わってしまい継続的な取り組みになりにくい
- 一人の力や時間には限界がある

★みんなで協力すると

- たくさんの新しいアイデアや視点が生まれる
- 従事者の意識も高まり継続的なネットワークにつながる
- 規模を大きくすることが可能になる
- 担当者が代わっても引継ぎがスムーズ
- PDCAサイクルで事業化できる
- 推進員自身を含めた専門職スキルの底上げになる

最初はみんなで協力するほうが大変かもしれない……

でも、「それでは市民のためにはならない。自己満足で終わる可能性が高い。」と、最近ようやく気が付きました。

③ 地域オリジナルの「味付け」をする

矢巾町わんわんパトロール隊から学んだこと

矢巾町の「料理」をそのままマネしても
向日市民の舌には合わない可能性がある

矢巾町の料理を参考に
地域オリジナルの「味付け」を考える
※できる限り地域の素材を使う

それぞれの地域が望む「料理」に近づく

③地域オリジナルの「味付け」をする

矢巾町わんわんパトロール隊から学んだこと NO. 2

現在企画中

矢巾町のわんわんパトロール隊いいな～
近隣によく似た組織がないか調べてみよう

警察が事務局ですすでにわんわんパトロール隊があることが発覚！

防犯が主目的のようだ。認知症等
高齢者の見守りもできないものか。

警察とわんわん隊員代表と打合せ

Win win!!

「警察としてもわんわんパトロール隊の充実と見直しを考えていたのでありがたい。」

「他に警察さんとしてしなければならないこと、例えば消費者被害についての啓発など、あればその時に一緒にしていただいてもよいのではないのでしょうか。開催時期も合わせます。」

「隊員も少ないので新規隊員募集も含めたイベントをしましょう。また10月には安全週間の期間で警察もイベントをする予定なのでそこに合わせてもいいかも。消費者被害の啓発も生活安全課としても多くの市民に啓発できるいいチャンス。」

「隊員代表からは、これ以上隊員さんに何かお願いするのは難しい……」

事務局は今までとおり警察とし運営方法も変更しない。
今までの防犯に加え、認知症高齢者を意識して散歩することから始めよう！
まずは、全市民対象に「わんちゃんイベント」を企画し、その中で認知症サポーターの内容とわんわんパトロール隊の紹介をしよう！

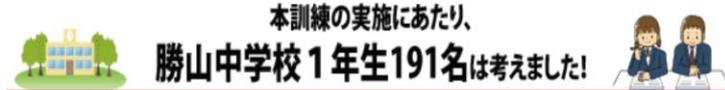
【結論】組織化しないほうがいい。

成果と今後について

- ・顔の見える関係の人や機関の**領域の幅**が広がった。
 - ・住民や関係者の**意識の変化**を感じる。
- 例) 徘徊SOS 協力依頼で断られることはない。
- ・**事業と事業、人と人がつながる**ようになってきた。
 - ・**世代間交流が継続性のあるもの**になってきた。
- 例) **認知症サポーター養成講座を受講した中学生がボランティア体験に参加し、高齢者施設で実習したり、徘徊模擬訓練に参加している。**

事業実施後の成果発表会にも呼んでくれたので参加してきました。

今後は、認知症に関心をもってくれた市民が具体的に活動できるように、事業を通じて知り合った皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思っています。



みんなが安心して過ごせる町にするために何ができるか?

- 👉 地域で困っている人がいたら、一人ひとりが少し勇気を出して、思いやりの心で自分に出来ることをおこなう!
- 👉 一人だけでなく、ご近所の人たちや町のみんなで協力して助け合い、みんなにやさしい環境をつくっていく!

具体的には・・・(意見の一部をご紹介します。)

- 見て見ぬふりをしない。
- 町のルールを守る。
- 挨拶や会釈など小さな事からしっかりとおこなっていく。
- 電車やバスで席をゆずってあげたり、荷物を持ってあげたりする。
- 認知症の方だけでなく、困っている人を見つけたら、近所に住んでいる人達で協力して助けあう。



大人になっても、ずっと忘れずにいたいと思います!!

声のかけ方(一例)

- ゆっくり近づいて、おだやかにやさしい口調で話しかけてください。
- 急に後ろから声をかけたり、大声で怒鳴るような声かけをすると混乱される事があります。
- 「こんにちは」「寒いですね」など、ごく普通のあいさつから始めてみてください。
- 「何かお困りですか?」「大丈夫ですか?」など、わかりやすい言葉で声をかけてあげてください。
- 相手のペースに合わせて、笑顔で接してあげてください。
- 上から見下すような態度や、多人数で取り囲んだり、急に腕をつかんだり、身体に触れたりすると、警戒心をもたれ、その場を立ち去ってしまわれる事があります。
- ゆっくり歩きながら「少し休んでいかれませんか?」「お茶でもいかがですか?」など声をかけたり、ひと休みしてもらえようようにしてみてください。
- 声をかけても上手くいかない場合は、いったんその場を離れて間をおくか、近所の方に連絡し協力を求めるなどしてみてください。



最後に

◎推進員の活動は見えにくいものが多いため、活動内容（特に**プロセス**の部分）をどのように**見える化**（**記録**）していくかが大切だと感じています。

そうすることで推進員の活動（役割）が見えてくると思います。

◎推進員ひとりで全てできません。

自分ができる範囲のことに**優先順位**を付けて、少しずつ**継続**して取り組んでいけばいいと思います。

◎協力してくれる仲間は探せば必ずいるはず。

チームで！

市民のために！！

推進員自身のためにも！

